



月一だより

中央区立月島第一小学校
令和5年12月 NO.482

「共育」「協育」とは

副校長 松澤 雄一

いよいよ年の瀬を迎え、今年も残すところ今月のみとなりました。

「共育」あるいは「協育」という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。これは、両方とも造語（既成の語を組み合わせて、ある意味を表す語を新しく作ること）です。言葉の意味は、「学校・教師・保護者はもちろんのこと、多様な立場や領域の人や組織（地域住民や一般企業）が連携・協力して教育を担うこと、ともに学び成長すること」だそうです。（一部「デジタル大辞泉」のページより引用）

では、実際に、どのような場面で「共育」あるいは「協育」を行っているかを考えてみたいと思います。学校では、様々な場面で「外部講師」の方に来ていただき、連携・協力して活動を行っています。今年度、これまでに、落語家、講談師、ストーリーテラー、音楽家、料理人など様々な方に来ていただき、有意義な活動を行ってきました。また、先日、PTA主催の「家庭教育学習会」では、民間企業の方にVRとドローンを活用した体験型学習会を行っていただき、親子で学ぶよい機会となりました。私自身、VR体験をした際、「歴史の授業で活用できないかな」と考え、学びの幅が広がる可能性を感じました。これからも、高い専門性や知識をもつ方々と連携・協力しながら、「共育」「協育」を推進していきます。

最後に、この文章を読んでいただいている保護者の方にお願ひがあります。学校と教師、そして保護者がともに協力して児童の育成を行っていくために、多くの声をお聞かせください。12月4日（月）に「学校評価保護者アンケート」をtetoruにて配信いたします。回答期間は、12日（火）までになります。今年度は、昨年度以上にもっと多くの方からの御意見をいただき、今後の教育活動に活かしていきたいと考えています。

保護者の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

12月の生活目標 みんなで協力して学校をきれいにしましょう。

かなでよう、ひびかせよう！

月一っ子のハーモニー

文化的行事 担当

3年ぶりの音楽発表会です。3年前は、コロナ禍ということもあり、演目内容の制限が厳しい音楽発表会でした。そんな中でも、精一杯児童が学んだことを発表し、心のディスタンスを縮める内容になったかと思っています。

そして、今年。制限も緩和され、歌声が復活します。練習中に体育館に響き渡る歌声は、一つの歴史的な困難を乗り越えた証のように思えます。3年前まで歌声や楽器に制限があったため、3年間の成果を発揮というわけではありませんが、児童の今できる精一杯な成果をお見せできればと考えています。

代表委員の考えた、「かなでよう、ひびかせよう！月一っ子のハーモニー」のスローガンを基に奏でる、そして歌える喜びが、月一っ子のハーモニーになり、皆さんの心に響き渡りますように。

応援よろしくお願いいたします。

個人面談について

教務主任

通知表の配布が年3回から2回に変わって2年目となりました。通知表の代わりとなる内容（学習面・生活面等）について、この個人面談を通して、御家庭にお知らせしていきます。併せて、保護者の方より御家庭の様子や学校への御意見・御要望をお聞きして、学校と家庭との連携を一層深めていきたいと考えています。

冬休みは年末・年始の時期であり、いろいろな行事があつて忙しい中ではありますが、お伝えできた学校での様子については、ぜひ、お子様とお話をし、これからの目標等を考えるきっかけにさせていただけたらと思います。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、多くの活動が実施できるようになりました。子どもたちが伸び伸び活動できるようになったことをうれしく思います。そのようなお子さんの頑張っている姿を少しでもお知らせできたらと考えています。お知らせについてはまだまだ不十分なところはありますが、面談等も通して学校の様子をお伝えできたらと思います。

今後ともよりよい教育をしていけるよう、御協力の程どうぞよろしくお願いいたします。